



# 田村たかみつ 市議会レポート



2017/1/1 (日)

**NO. 54**  
Since 2003.3

発行責任者：田村隆光 〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山1468-5 TEL:077-558-0490



田村隆光 (59)

## ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、大変お世話になりました。

私にとっての5回目の「酉年」が幕開けです。

年齢的にもの大きな転換期を迎えるにあたり、これまでの人生を振り返るとともに、私に残された人生をどう生きていくのか？人生の設計をしつかりと確認する時間としての1年にできればと思います。

さて、昨年も国内外、様々な出来事がありましたが、個人的に取り組んできたことの進捗を少しですが感じることができた1年でした。

今年の、私の議員としての抱負は、地域的なこととして、①子どもの貧困と教育のあり方への取り組み、②障がい者の就労支援と農業の活性化の取り組みとして「農福連携」の取り組み、③議会改革の取り組み等を中心に据え、市民の元気、まちの活力のために頑張りたいと思います。

また、国政的なことで言えば、やはり、貧困・安保・憲法・原発、そして沖縄、それぞれの社会・政治課題に関して、勉強もさることながら、自分の信念に基づく行動の伴う活動をしていきたいと思います。

そして、個人的な目標としては、昨年は、「富士山登頂」という目標を達成しましたので、やはり「健康的なダイエット」をメインテーマとして頑張り、屋久島登山に挑戦したいですね。

今年も皆様にとりまして、素晴らしい1年であることを祈念いたしますとともに本年もよろしくお願ひいたします。

栗東市議会議員 田村隆光

## 2016年11月～12月 主な活動

11月7日	環境建設常任委員会行政視察（岩手県花巻市）
11月8日	第62回全国競馬労働組合定期大会
11月10日	福岡県嘉麻市行政視察「議会防災」対応
11月11日	千葉県佐倉市行政視察「議会防災」対応
11月12日	子どもの貧困プロジェクト会議
11月15日	日本中央競馬関東TC労働組合定期大会
11月16日	議会改革特別委員会
11月20日	学童フェスティバル
11月21日	参議院副議長 郡司彰参議院議員面談
11月22日	連合議員団ネットワーク会議
11月23日	栗東クロスカントリー大会
11月23日	今、沖縄で何が起こっているか？集会
11月25日	連合滋賀第3区懇談会
11月26日	地域の魅力を発見し発信しよう！セミナー
11月27日	子ども議会
11月29日	ファブリーダム改修委員会
11月30日	農福連携全国サミットin三重 講演会
12月1日	農福連携全国サミットin三重 施設見学
12月5日	12月定例会開会（～22日）
12月9日	商工会政治連盟懇談会
12月10日	農福連携意見交換
12月12日	議会広報編集特別委員会
12月17日	「読まれる・伝わる」文章講座
12月19日	会派代表者会議・議会改革特別委員会
12月23日	木村敬一選手パラメダル受賞祝賀会
12月27日	議会広報編集特別委員会
12月29日	セトレマリーナ餅つき大会
12月31日	日吉神社大祓式・除夜祭

## Topics

### ●日清食品株式会社が、575億円を投じて最新鋭の新工場を建設

栗東市で昭和48年9月から下鈎地先で操業している日清食品株式会社（社長：安藤徳隆氏）は、本年5月から、下鈎（元セヌイハウス工場跡地）の同社が所有している約10万m<sup>2</sup>の土地に関西工場（仮称）を新たに建設を始めます。最新鋭設備の導入した315万食の生産能力を持つ同工場は、575億円を投じて建設され、完成（第3期工事完了）は、平成31年12月の予定とのことです。

このことがまた、市民の元気と、まちの活力につながることを期待しています。

# 12月 定例会

## 19億円の大幅補正・・・総予算267.9億円に

学校給食センター・防災拠点施設整備・小学校大規模改造  
職員給与など国庫補助金・市債・繰越金等で対応！！

### 一般会計補正予算概要

今年度4回目となる補正予算は、18億9700万円という大幅な補正となりました。内訳として学校給食センター建設や防災センター建設など大規模な建設事業予算、人事院勧告による市の職員の給与の引き上げ予算等が盛込まれたものですが、主な歳入と歳出は右の通りです。（全会一致で可決）

なお、学校給食センターは平成30年9月、防災センターも同じく平成30年3月の操業開始を目指しています。

#### 【主な歳入】

- ・国庫支出金・・・ 258,181千円
- ・県支出金・・・ 310,500千円
- ・財産収入・・・ 13,907千円
- ・繰越金・・・ 131,596千円
- ・市債・・・ 1,158,300千円

#### 【主な歳出】

- ・障害者自立支援給付等事業・・・ 87,000千円
- ・保育所入所委託事業・・・ 44,000千円
- ・焼却搬送等委託・・・ 11,700千円
- ・県施行土木建設事業負担金・・・ 114,881千円
- ・新幹線新駅建設等整備基金積立金・・・ 279,140千円
- ・防災拠点施設整備工事・・・ 24,948千円
- ・大宝小学校エレベーター棟増築工事・・・ 74,781千円
- ・治田小学校大規模改造工事・・・ 108,924千円

#### 【繰越明許費】

- ・防災拠点施設整備事業・・・ 545,979千円

※「繰越明許費」とは、この補正予算を当該年度で使うことが期間的に難しい場合に翌年度に繰越して使用することを予め明らかにしておくものです。



▲防災拠点施設完成予想図

### 人事院勧告で職員給与

#### 月給・ボーナスとともに引き上げ

人事院勧告とは、その年の国家公務員（対象：27万人）の給与水準を民間企業従業員の給与水準と均衡させることを行うもので、その改定結果に準じて、地方公務員（300万人）の給与も改定するものです。

今回それに伴い、栗東市職員の給与に関する条例及び栗東市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の改正を行いました。

内容としては、給料表の改定、勤勉手当の支給月数の引き上げ、扶養手当の額の改正、介護休暇の分割取得、介護時間の新設、深夜勤務等の制限に係る子の範囲の拡大に伴う改正です。

具体的には、

①初任給を1,500円引き上げるとともに、若年層の給与も月400円引き上げる。

②ボーナス（期末手当・勤勉手当）の支給月数を現行4.2ヶ月を4.3ヶ月に引上げる。

以上は、平成28年4月1日に遡り支給。

③配偶者手当13,000円を6,500円に減額、子どもに係る手当を6,500円から10,000円に引き上げる。

④介護休暇を、現行の対象家族1人につき1回から、3回まで分割取得（6ヶ月を超えない範囲）できる。（法改正）

⑤最長3年、1日2時間まで介護のために勤務しないことを承認可能とすることを新規で設ける。ただし、無給。

⑥育児休業等の育児支援制度の対象を、現行の「親子関係のある子のみ」から「特別養子縁組の監護期間中の子等」に拡大。

⑦上司・同僚とによる「マタハラ」等の防止について現行は“意識啓発”等に止まっていたものを「マタハラ等防止策」を整備することとするないように強化。

（全会一致で可決）

## 契約の締結：3件で9.7億円

以下の3件が、議会の議決を必要とする契約に関する議案で、すべて全会一致で可決されました。

### ①栗東市防災拠点施設建設工事（建設工事）

工事期間	平成29年3月27日まで
入札日	平成28年10月25日（応募：3社）
契約金額	407,160,000円（消費税込み）
契約相手	三東・たち建設工事共同企業体 *株式会社 三東工業社（栗東） *たち建設株式会社（栗東）

### ②栗東市防災拠点施設建設工事（電気設備工事）

工事期間	平成29年3月27日まで
入札日	平成28年10月25日（応募：2社）
契約金額	252,072,000円（消費税込み）
契約相手	アン・さんでん建設工事共同企業体 *アン・コーポレーション株式会社（栗東） *株式会社さんでん（栗東）

### ③栗東市保育園・幼稚園自演給食調理等業務

契約期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
選定方式	プロポーザル：平成28年11月11日
契約金額	307,152,000円（消費税込み）
契約相手	一富士フードサービス株式会社（大津）

※プロポーザル方式とは、業者を選定する際、単に価格の安さだけで選定したのでは、期待した結果が得られない場合も生じてしまうため、公募または指名により複数の者（受託希望者）からその目的に合致した企画を提案してもらい、その中から企画・提案能力のある者を選ぶ方式です。

## 農業委員の定数等の条例 新設

平成27年8月の農業協同組合法等の一部改正により新たな農業委員会制度がスタート。それに伴い、農業委員の定数等を定める新たな条例を制定しました。

農業委員会法については、農地利用の最適化（担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）を促進するため、

- (1) 農業委員の選出方法を公選制から市町村長の選任制に変更
- (2) 農地利用最適化推進委員の新設
- (3) 農業委員会ネットワーク機構の指定

以上の改正が行われ、栗東市の場合、平成29年7月2日から施行されます。

### 【主な条例の内容】

<定数＝概ね100haあたり1人>

- ①農業委員の定数・・・・・・・・・・・・14人  
②農地利用最適化推進委員の定数・・・7人

<報酬・日当>

会長	38,500円／月
会長職務代理者	33,800円／月
委員（②の委員含む）	31,500円／月
日当（全員）	2,800円／回



## 原発事故による避難者向け無償住宅支援継続と復活を求める請願＝「不採択」

今議会に、「原発事故避難者の住宅支援継続を求める滋賀の会」より請願書第6号「原発事故による避難者向け無償住宅支援の継続及び住宅支援の復活を求める意見書の提出を求める請願書」が提出されました。

請願書は、私の所属する環境建設常任委員会で審査。参考として提出者から、請願の主旨等について説明を受け、その後、委員会で審議の結果「採択すべきもの」と決しましたが、本会議において、自民党系会派・公明党会派の反対により残念ながら「不採択」となりました。

この請願は、今年3月をもって国が原発事故の避難者の住宅支援打ち切りを決定している中、事故後5年9ヶ月経っても生活再建のめどの立たない避難者が全国に14万人にものぼることから、住宅問題はまさに「命綱」の問題であり、住宅支援の継続を求めるものです。

現在、滋賀県にも福島県から155人（他県から57人）、うち栗東市に3世帯19人が避難されています

『原発事故子ども・被災者支援法』では、原発事故による被災者が居住、避難、帰還のいずれを選択する場合においても、「自らの意思

によって行うことができるよう、被災者がそのいずれを選択した場合であっても適切に支援するものでなければならない」と定め、国の責務として、避難先の住宅の確保に関する措置を定めていますが、今回の国の対応は法の規定と矛盾したものとなっています。

私は、「国は、同法を遵守し、同法に基づき、避難者の住宅確保のための措置を継続するべきだ」との趣旨の賛成討論も行いましたが、残念ながら不採択に。

しかし、この原発及び福島の問題は継続して対処していく必要があります。



## 消防出初式

2017年1月8日（日）  
9:30～ 栗東市立体育馆



2017年1月8日（日）  
13:30～ さきら大ホール

## りっとう ヤングフェスタ

2017年1月14日（土）  
13:30～ さきら大ホール

## 全国植樹祭記念 第60回 耐寒アベック登山

2017年1月15日（日）  
当日受付 9:00～9:30  
金勝第1幼稚園駐車場  
＊金勝小学校～金勝寺までの  
7kmのコース

## 3月定例会（予定）

2月27（月）	定例会開会
3月6日（月） ～7日（火）	代表質問
7日（火） ～9日（木）	個人質問
10日（金） ～15日（水）	予算 常任委員会
16日（木） ～17日（金）	常任委員会
23日（木）	定例会採決

## 傍聴をお待ちしています

市政に関する様々な疑問、  
要望等お気軽にご相談ください。

ホームページもご覧ください  
WEB : <http://t-tamura.jp>  
mail : 22@t-tamura.jp



## 地域の魅力を発見し発信しよう

11月26日

しました。講師は、現在、紙・Web・ラジオなど、さまざまな媒体で西宮市の魅力を発信中の林拓真さん。この講座は、来年4月から栗東市が実施する「協働型Facebook」のスタートに先駆け、全4回の構成で栗東市の魅力発信のコツを、プロのライターや写真家の方から学びます。

4回の講座が終了すると、受講された皆さんには、一緒にまちの「いいね！」を発信するメンバーとして活躍してもらうことになっており、何だかワクワクするようなイベントになってきました。



▲コミセン治田での講座の様子

## 農福連携全国サミット in 三重

11月30日～12月1日

旧知の知人との再会で、「農福連携」というワードを知りました。

そして、知人の書いた

レポートを読み、これまで「農業」と「福祉」は別ものと捉えていましたが、まさにベストマッチできるものであることを実感し、タイミングよくサミットがありましたので参加しました。

「農福連携」とは？（下記、日本基金ノウフクプロジェクト担当理事 林 正剛 氏 資料より）

＜引用始め＞ 働く意欲があっても障害等の理由により一般企業に就職できず、就労支援施設を利用して就労している障害者が約20万人いると言われています。また、その施設を利用している障害者の全国平均月額工賃（収入）は平成26年度にA型事業所で66,412円、B型事業所で14,838円（厚労省調べ）であり、このような施設では、就労訓練のため、働く場や仕事を求めています。

一方、農業分野では高齢化による担

い手不足や耕作放棄地の拡大という問題が深刻化しており、仕事があつても人が足りないという状況にあります。このような中で、両者の持つ資源を有効活用してお互いの問題を解決する「農福連携」という考えが広まりつつあります。

これは、「農業」と「福祉」が分野を超えて連携し、人材の交流や知識の共有を行うことで、働く場所や人材の確保、地域の活性化に結びつけるというものです。＜引用終わり＞

サミットの初日は、「農福連携」の実例や未来に向けた提言など報告。二日目は、「農福連携」を実践され、障害者の方々が就労されている現場を視察。みなさん活き活きと働いておられ、地域の農家の皆さんもこの取り組みに大きな評価をされていました。また、このことは「農福連携」だけでなく、「農福商工連携」へと繋がっていくものであることも理解でき、大きな可能性を感じました。このことを、ぜひ栗東でも！実践し、市民の元気、まちの活力につなげられればと思っています。



▲サミットの会場となった三重県総合文化センターは満員、関心の高さが伺えました。



▲鈴鹿市のアクティブ鈴鹿さんの野菜の水耕栽培、松阪市の八重田ファームさんのイチゴの栽培の現場を視察。